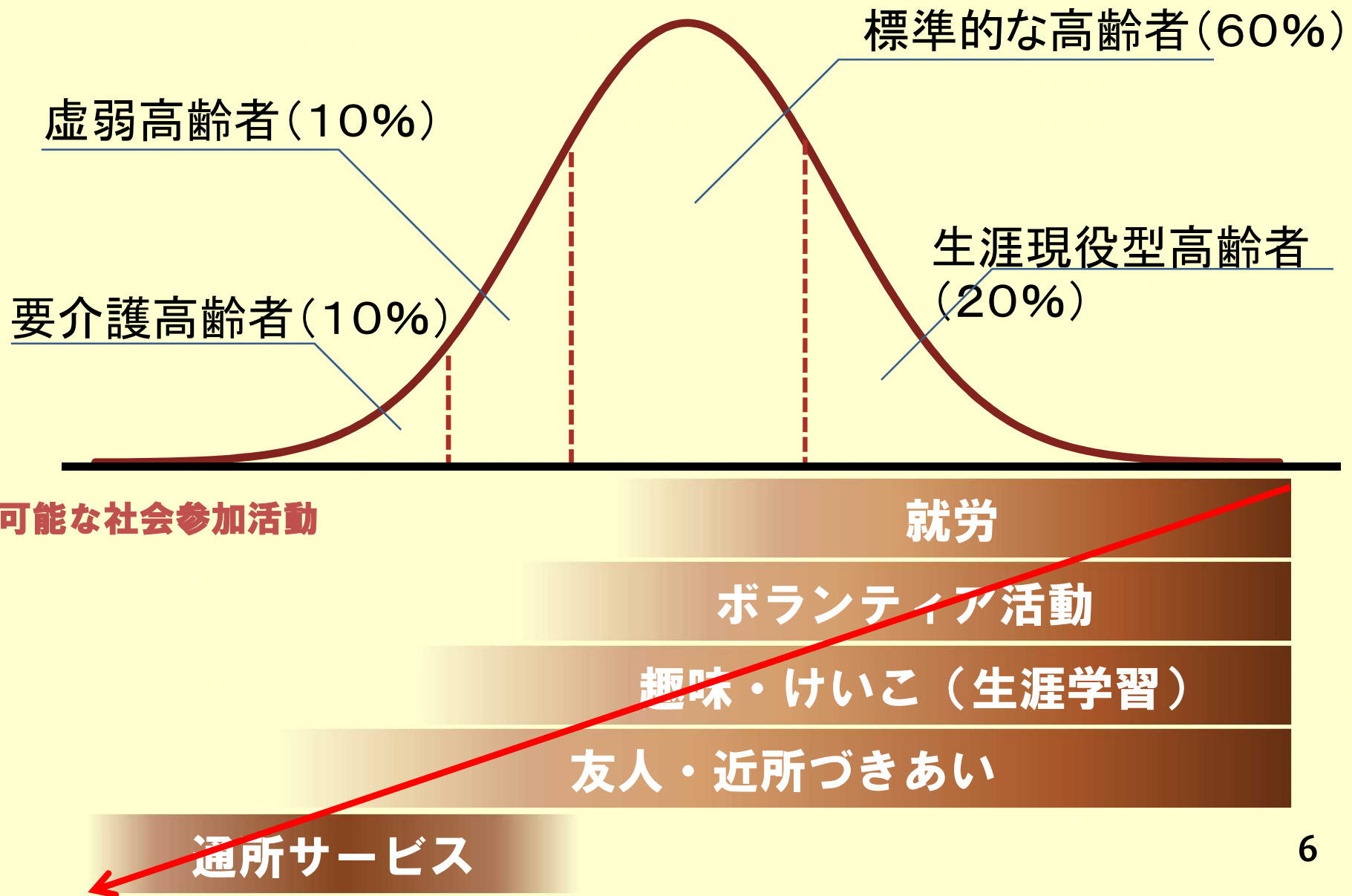


# 10年目の課題～シームレスな社会参加は可能か？



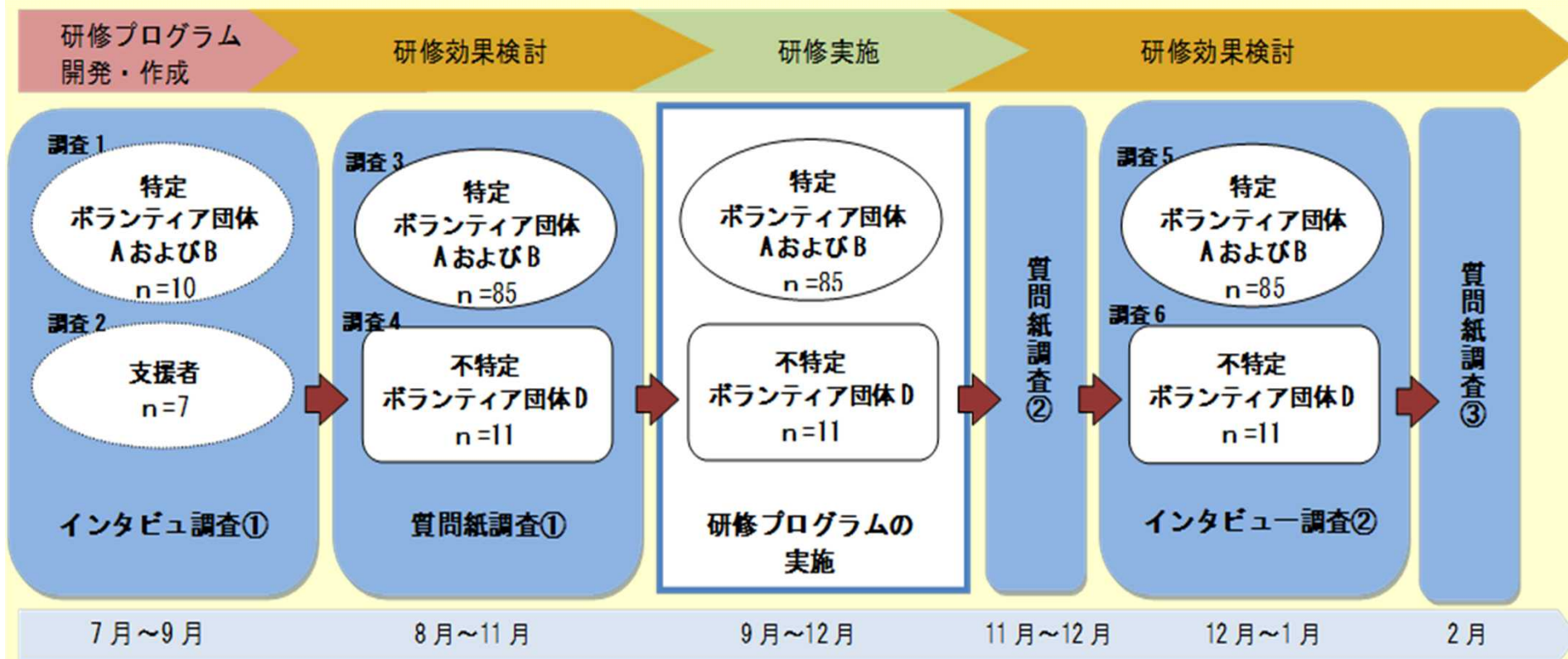
# 背景

1. 加齢に伴う健康障害によるボランティア活動継続の困難
2. グレーゾーン高齢者の社会参加活動の機会の不足
3. 身体・認知機能維持および高齢者のQOL向上のための社会参加活動継続の重要性
4. 高齢者の社会参加活動を評定する方法の必要性

# 目的

1. 高齢者ボランティア間の相互支援を高めるための研修プログラムの開発およびその効果検証
2. 高齢者ボランティアのコミュニケーションを活動現場でモニタリングし、評価するためのチェックリストを開発・検証

# 高齢者ボランティア間の相互支援を高めるための 研修プログラムの開発



団体A,B:首都圏2地域で子どもへの絵本の読み聞かせ活動をおこなう“りぷりんと”。  
団体D:横浜市D区で種類を問わずボランティア活動をおこなう。  
支援者:ボランティアリーダーとコーディネーター

# (1) 研修前調査項目 — 1 —

[1]活動継続意向:今後どの程度まで活動を続けたいか?

「1=非常にそう思う」~「5=全くそう思わない」

- (1) 仲間にサポートしてもらい
- (2) 活動内容を工夫して
- (3) 活動頻度を減らして
- (4) 現在の活動レベルを維持できている間だけ
- (5) ボランティア定例会だけでも
- (6) 活動場所や機会を増やして

できる限り続けたい

[2]活動の負担感:

(A)活動がどの程度、楽しみになっているか?

「1=かなり楽しみ」~「5=全く楽しみでない」

(B)活動の心理的・身体的な負担は?

「1=かなり負担」~「4=全く負担でない」



# (1) 研修前調査項目 —2—

[3]サポートの受領 :「1=とてもよく」~「5=全く」

(A)団体・グループ内のサポート受授

- ①心配や悩み事を聞いてくれる(あげる)か？
- ②気を配ったり、思いやりを示してくれる(あげる)か？

(B)団体・グループ内のネガティブサポートの受領

- ①イライラさせたり、怒らせたりするか？
- ②余計なお世話をすることがあるか？

(C)自分の周りに(自分が)継続困難者がいる場合に、声をかけたり気を配ったりしたか(してもらったか)？

[4]活動継続支援に対する団体・グループの体制や雰囲気

(D)自分の周りに(自分が)継続困難者がいる場合に、活動を続けやすい体制や雰囲気があるか？



## (2) 研修前調査の成績－1－

	都心型団体A (n=45)	郊外型団体B (n=38)
<b>本人の継続意向</b>		
活動場所への移動を支援してもらい続けたい	22.2%	44.7%
活動内容を工夫して続けたい	8.9%	7.9%
活動頻度を減らして続けたい	35.6%	36.8%
現在のレベルを維持できている間だけ続けたい	77.8%	81.6%
定例会だけでも参加して続けたい	22.2%	23.7%
<b>活動の負担感</b>		
活動が楽しみになっている	68.9%	94.7%
活動に心理的負担を感じる	51.1%	26.3%
活動に身体的な負担を感じる	31.1%	21.1%
<b>サポート受領</b>		
心配事や悩みを聞いてくれる	46.7%	63.2%
気を配ったり、思いやりを示してくれる	53.3%	73.7%
<b>サポート提供</b>		
心配事や悩み事を聞く	33.3%	47.4%
励ましたり、慰めたりする	42.2%	50.0%
<b>ネガティブサポートの受領</b>		
怒らせたり、イライラさせる	6.7%	0.0%
世話を焼き過ぎる	8.9%	0.0%

p<0.05

p<0.01

## (2) 研修前調査の成績－2－

	都心型団体A (n=45)	郊外型団体B (n=38)
<b>団体・グループの支援体制についての印象</b>		
困難者が継続しやすい雰囲気ある	37.8%	60.5%
(継続困難者に)仲間が継続支援してくれる	66.7%	75.0%
仮に継続困難に陥ったら、仲間が助けてくれる	48.9%	57.9%
<b>団体・グループとしてあるべき支援体制・会員個人の支援現状や意向</b>		
活動場所への移動支援すべき	48.9%	65.8%
活動内容を工夫して支援すべき	35.6%	52.6%
頻度を減らして支援すべき	55.6%	81.6%
近場の活動場所にして支援すべき	66.7%	89.5%
現在のレベルで活動できる間のみ支援すべき	60.0%	39.5%
定例会参加のみでも支援すべき	42.2%	23.7%
特に何もする必要ない	11.1%	0.0%
(継続困難者に)自分が継続支援している	24.1%	41.7%
仮に継続困難者がいたら、気を配りたい	31.1%	48.6%

p<0.05

p<0.01



# (3) 研修プログラム

項目	時間	内 容
1	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シニアのボランティア活動の意義</li> <li>・シニアボランティアの地域や子どもへの効果</li> <li>・シニアボランティアの心身・認知機能への効果QOL向上への効果</li> </ul>
2	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■加齢に伴う体の問題とその対処について</li> <li>・身体機能の変化とその原因</li> <li>・身体機能の低下への対処方法</li> </ul>
3	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■認知症症状の理解とその対応方法について</li> <li>・認知症症状とメカニズムを知る</li> <li>・認知症症状への対処方法を学ぶ</li> </ul>
4	75分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自分たちの活動の意義を再確認する</li> <li>・受け手のニーズを理解する</li> <li>・活動の目的を再確認する</li> </ul>
5	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニケーションスキルアップ</li> <li>・相手を思いやった声掛け、話の聴き方</li> </ul>
6	60分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■グループワーク</li> <li>・「楽しく活動を続けるための工夫」(継続困難者支援の具体的な方法を話し合う、活動の目的を再確認する)</li> </ul>

